



# 議員つて

十八歳のとき米国の高校に留学した。レーガンとカーターの大統領選真っ最中。高校生が、どちらが大統領に適任か論議している姿に感心した。「日本は、世界との関係がなくては存在しない国。いつか地球的な視野で日本の価値観を表明したい」と強く思った。草加市の独協大学を卒業したこともあって、二十八歳で立候補、当選。現在二期目。

〈公約は実現できたか〉  
議員は公約を絶対実現し

草加市議  
瀬戸健一郎氏(32)  
(無所属)

なくてはいけない。外国人になってはいるが、議会の語学指導助手をすべての公立中学に配置するといふ公約では、全十一校に対し五人雇うまで進んでいない。

活費が足りなくなる。一千七千人の市民が東京都中央区に通勤しているが、昼間区に通勤しているが、昼間区に働いた分が草加市に還元されるべきだ。財源が地方に十分あれば、官僚の力も軽減する。

外国人労働者や高齢者の問題でも、社会の問題はまず地方にあらわれる。税金を最も使っているのも、政治の底支えをしているのも地方だ。

よく「市民の声を聞く」といふが、そのまま聞いていいのか。行政マンの首根っこを捕まえて、強引に要望を実現するのではなく、その問題の本来に必要な部分を見極め、こたえていく能力が求められている。

「全国若年市議会議員の会」の市選選挙の応援に行った九州から戻ったばかりの瀬戸健一郎氏(17日、草加市で)

〈議員定数〉 行政改革と議員定数削減が同列に論じられるのはおかし。行政のチェック機能として、定数を増やしてもいいくらいだ。ただし、近隣の市と定数だけを比べると、草加は八人議の二十八人くらいが適当。

問題意識を持っているが、その解決策を知らない議員は多い。最近では少なくとも必要経費を差し引くと、生

外に収入はない。年二回の市政報告を三千人に送り、ほかに視察費や資料代など必要経費を差し引くと、生

〈議員報酬〉 私は年間八百六十万円の議員報酬以外に収入はない。年二回の市政報告を三千人に送り、ほかに視察費や資料代など必要経費を差し引くと、生

## 求められられる問題解決能力



「全国若年市議会議員の会」の市選選挙の応援に行った九州から戻ったばかりの瀬戸健一郎氏(17日、草加市で)

〈首長や有権者に望むこと〉 首長はきちっとした政策ビジョンを示すべきだ。夢を具現化する努力をしてほしい。有権者にはもっと問題意識を持ってほしい。積極的に「生きる」というエネルギーを持つべきだ。